

2023. 2



佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して

News & View



〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

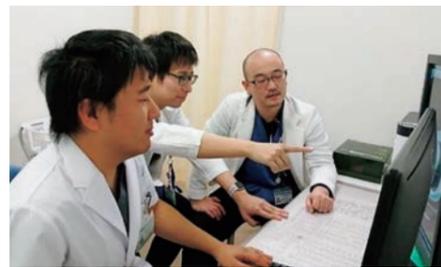
TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>



▲社会医療法人 祐愛会 織田病院

佐賀大学医学部附属病院(当院)では、地域医療を支え、質の高い総合診療医を現場で育成する目的で、これまでに佐賀市立富士大和温泉病院、国立病院機構嬉野医療センターに地域総合診療センターを開設しました。当院から各センターに総合診療医を派遣し、さらに当院のスタッフが各センターを訪問して実践的な指導を行っています。そしてこの度、第3のセンターを鹿島市の社会医療法人 祐愛会 織田病院に開設することとなりました。織田病院は他のセンターと異なる特徴を持つ、中規模の地域中核病院です。当院では、今後も多彩な地域総合診療センターで地域医療を支え、様々な問題に対して柔軟に、幅広く対応できる質の高い総合診療医の育成を行っています。



地域総合診療センター長
多胡 雅毅

第3の地域総合診療センターを開設します

今度も、私たち助産師は、エンジェルドレスを通しお産にかかわる母とご家族の物語が意味あるものとなるように、温かなケアを今日も続けていきます。



エンジェルドレス — 赤ちゃんの御家族の 最期の時を支えるケア —

2階西病棟には、悲しいお産をしなくてはならないお母さんも入院されます。冷たい赤ちゃんにそっと触れながら「ごめんね」と泣かれるお母さんのお姿を見て、何かお気持ちに沿うことが出来ないか、私たちは手をひらくらいの小さな時を特別なひとときとし、家族の絆を高められる、そんな心のケアの一つとして、私たちは手のひらくらいの小さな赤ちゃんでも抱っこできる「エンジェルドレス」を作りました。ご家族からは「かわいい」「抱っこ出来てよかった」などのお声を頂くことができます。

2階西病棟
渡辺 直子
糸山 裕子



メディカルサポートセンター長
江崎 幹宏

連携病院長会議

さる令和4年10月22日、佐賀大学医学部附属病院連携病院長会議が3年ぶりに対面形式で開催されました。野口満院長の挨拶に続き、松永啓介佐賀県医師会会長、吉原正博佐賀市医師会会長からご挨拶を賜り、メディカルサポートセンター活動報告、新任教授挨拶、診療科等の取り組みとして臨床倫理コンサルテーションチーム、周術期外来の取り組み、術前中止薬管理アプリが紹介されました。最後に織田正道先生より閉会の挨拶をいただき、対面形式での開催の重要性を強調していただくとともに、来年度は是非とも会議終了後の懇親会開催に対する期待の言葉を述べられ、約1時間の会議は盛会のうちに終了しました。なお、出席者は院内52名、来賓41名、合計93名でした。



▲正門から見た外観イメージ



▲正面玄関から見た外観イメージ



▲完成予想パース



▲苜初(の儀) (野口病院長)



▲地鎮祭の様子

さらなる患者サービス向上を目指して 外来患者用立体駐車場建設



医事課長
内藤 浩幸

本院は、慢性的な駐車場の不足解消及び本院に通院される患者さんのさらなるサービス向上を目指して、南駐車場に立体駐車場を建設することになりました。

この立体駐車場建設に当たっては、民間資金を活用し、官民が一体となって事業を行う形式をとり、敷地内薬局誘致に応募した事業者により、立体駐車場の建設を行うこととなりました。

立体駐車場の工事開始に先立ち、新規事業云に相応しい「一粒万倍日」の令和4年12月12日大安吉日の10時30分より、佐嘉神社新宮を斎主とし、佐賀大学からは、寺本附属病院担当理事、野口病院長をはじめ関係者、事業者からは、建築主であるJA三井リース建物(株)、日本調剤(株)等の関係者、27名の参列者の下、おごそかに地鎮祭が執り行われました。

式典では、修祓の儀、降神の儀、献饌の儀、祝詞奏上の後、地鎮の儀では、野口病院長が苜初(の儀)で盛砂の芽を「エイ！エイ！エイ！」のかけ声で刈り取る動作を行いました。その後、関係者による鍬入の儀、鋤入の儀、杭打の儀が行われ、代表者による玉串奉奠を行い、式典は滞りなく無事終了しました。

立体駐車場建設には、令和4年12月から令和5年9月までの約9カ月余りを要し、ご利用の患者さん等には大変ご不便をお掛けすることになりますが、立体駐車場完成後は、現在の駐車台数の639台から最終的には949台と310台増加するとともに、立体駐車場は二層三段構造で一階部分には身障者駐車場を42台分確保し、歩行が困難な患者さんの利便性を向上するために車椅子置き場も新設します。

また、立体駐車場から病院正面玄関への動線であるプロムナードの横断歩道には、トラス構造の頑丈な屋根を敷設することで、患者さんは、雨の日等でも一切濡れることなく病院玄関までアクセスすることが可能となります。

さらに、立体駐車場に隣接する付帯施設の一階部分には、調剤薬局が配置され、受診後駐車場へ向かう動線の途中でお薬を受け取ることが可能となります。

「近未来・高度医療への対応」、「地域医療への貢献」、「教育・研究機能の強化」、「病院管理・運営の効率化」、「地球環境への配慮」の基本理念に基づき開始した本院の病院再整備も最終段階となり、令和6年3月の完成を予定しておりますが、病院施設も一新され、立体駐車場が新たに設置されるこの機会が本院の新たなステップへの門出として、佐賀県医療界の最後の砦として躍動していくことを期待してください。

工事期間中は、患者さん及び職員の方々には、大変ご不便をお掛けいたしますが、これまで以上のご理解、ご協力をお願いいたします。

診療科紹介

消化器内科



消化器内科教授

江崎 幹宏

当院では食道から大腸までの全消化管疾患および胆道系疾患の診療を行っています。消化器内視鏡検査件数はCOVID19感染拡大の影響を受け一時的に減少しましたが、2022年度はCOVID19感染前の状況まで回復し、年間6000件程度の検査件数に達する見込みです。内視鏡治療についても粘膜下層剥離術を中心とする高度の内視鏡治療を中心に数多く実施してきましたが、クリーンコロンの概念に基づき5mm前後の大腸ポリープに対するコールドポリペクトミーも積極的に導入し、益々積極的に内視鏡治療を行っています。さらには消化管癌患者さんのトータルケアを目指し、昨年度から進行消化管癌に対する化学療法も血液腫瘍内科と協力しながら数多く実施しています。また、自身の診療の中心に据えている炎症性腸疾患（IBD）は、病態解明の進歩とともに新たな内科治療薬が次々と登場し、個々の患者さんの病態に即した治療選択が必要となっています。加えて、若年者に多く発症し長期にわたる治療が必要となることから、患者さんの社会生活面での配慮なども必要とされています。そのような観点から、本院にIBDセンターを設立し多職種が関わる包括的診療に取り組んでいます。また、原因不明の消化管出血をはじめとする小腸疾患に対して、カプセル内視鏡やバルーン内視鏡を用いた小腸内視鏡検査・治療も積極的にを行っています。当科では地域の医療機関から安心して頼っていただける基幹病院として、また高度かつ最先端の医療を提供できる医療機関として医局員一同頑張っておりますので、気兼ねなくご紹介いただければ幸いです。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



看護師特定行為研修

特定行為研修は、看護師が手順書により診療の補助として特定行為を行うために必要とされる、病態生理や臨床推論、フィジカルアセスメントなどの臨床判断能力と特定行為を活用した臨床実践能力を習得するための研修です。

佐賀大学医学部附属病院の特定行為研修は、高度急性期医療の現場におけるチーム医療のキーパーソンとして、患者さん・家族のニーズに応え、さらに医師や他職種から期待される役割を十分に担える人材の育成を目的に、令和2年10月に開講しました。研修期間は1年間で、研修生は就業しながら受講しています。今年度は3期生として当院より術中麻酔管理領域3名と院外より糖尿病関連2名が受講中です。これまでに術中麻酔管理領域5名が修了し、他にも他施設で研修を修了した、創傷管理関連2名、糖尿病関連1名、緩和ケア関連1名、計9名が在職しています。

特定行為研修修了者は、手術部、ICU・CCU、ECU、外来等に所属し、次のような特定行為を医師の診療の補助として実施し、



▲ECUでの診察の場面



▲手術麻酔管理の場面

患者さんへのタイムリーな対応と、QOL向上に努めています。

特定行為研修担当看護師長

酒井 宏子

- 手術を受ける患者 麻酔科医の指示の下で手術麻酔管理を補助しています
- 人工呼吸器を使用している患者 呼吸状態に応じた人工呼吸器の調整や気管チューブの位置調整を行っています
- 動脈からの血液検査が必要な患者 動脈からの採血を行っています
- インスリン治療中の患者 生活習慣や体調に応じてインスリンの調整を行っています
- 床ずれ等、傷のある患者 傷を清浄化する処置をしています

世界肝炎デー



肝疾患センター 副センター長 磯田 広史

世界保健機関（WHO）は、7月28日を「World Hepatitis Day」（世界肝炎デー）と定め、世界的レベルでのウイルス性肝炎のまん延防止と差別・偏見の解消や感染予防の推進を目的とした啓発活動等を実施しています。この日付はB型肝炎ウイルスを発見し、診断法やワクチンを開発してノーベル生理学・医学賞を受賞したブランバグ先生の誕生日に由来します。

佐賀県はB型C型肝炎ウイルスに感染された方が多く、肝がん粗死亡率が全国ワーストで長年推移しています。他人事とは思わずに、多くの方が肝炎を知り、肝炎ウイルス検査を受けていただけるように、毎年佐賀県内の医療機関・行政・患者さん、多くの関係者が啓発イベントを実施しています。みなさんもぜひ一緒に活動しましょう！



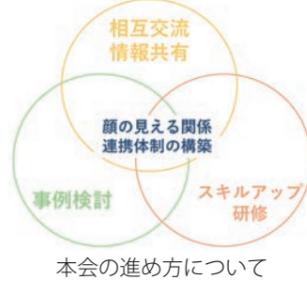
「佐賀県地域連携実務者懇話会」を開催しました

メディアカルサポートセンター

副センター長 江口 利信



佐賀県健康福祉部医務課、佐賀県病院協会のご協力を得て、令和4年10月7日に「佐賀県地域連携実務者懇話会」を開催しました。本会は佐賀県における地域医療連携を担う実務者の方々との相互交流、情報交換を行い、県内の医療・看護・地域連携の強化、地域包括ケアの推進を図ることを目的としています。当日はWeb形式で、県内の41医療機関実務者100名の方及び県医務課、病院協会担当者の方に参加頂き、「相互交流・情報共有」、「スキルアップ研修」、「事例検討」、連携実務者の情報共有ツール作成、運用を進めていくことになりました。



参加施設のご紹介

- | | | |
|---|---|---|
| <p>唐津市</p> <ul style="list-style-type: none"> 唐津市立総合医療センター 唐津市立病院 唐津市立小児科 唐津市立産科 唐津市立老人保健施設 | <p>伊万里・有田</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊万里市立総合医療センター 伊万里市立病院 伊万里市立小児科 伊万里市立産科 伊万里市立老人保健施設 | <p>鳥栖市</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥栖市立総合医療センター 鳥栖市立病院 鳥栖市立小児科 鳥栖市立産科 鳥栖市立老人保健施設 |
|---|---|---|

連携病院紹介

済生会唐津病院

済生会唐津病院（昭和9年開設）は現在、193床全て急性期一般入院科1でDPC標準病院群として運営しています。令和3年半ばより新型コロナウイルスの重点医療機関です。

診療科は、内科・外科・脳外科・整形外科・放射線科・麻酔科が中心です。医療と福祉を総合的に提供する済生会の一員として、特別養護老人ホーム・老人保健施設・訪問看護なども併設しています。

戦後、生活困窮者対応や結核・へき地診療も担った困難な時代を踏まえると、良好な経営と良質な医療の両立が重要だと思います。そのため人材の確保と育成が最重要です。佐賀大学医学部附属病院からは昭和59年以来、長年医師を派遣いただき、現在、常勤医師15名、非常勤医師12名の派遣をいただいております。大変感謝しております。また、臨床研修病院及び専門医育成プログラムの一環として、医師の育成に貢献できる点にも、大学・基幹型臨床研修病院に感謝いたします。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



院長 園田 孝志